

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	昨年度は地域の自治会に加入したり、月1回のお茶会を開き少しずつではあるが地域との繋がりができつつある。さらに広くひろいしの里を知ってもらう必要がある。	地域の方々に気軽に立ち寄って頂けるようにする。	①今年度も毎月一回のお茶会を開き地域の方と交流の場を持つ。 ②地域の一人暮らしの高齢者にお茶会への誘いかけを行う。(地域包括支援センターと連携する) ③年3回イベントを開き一緒に楽しむ機会を持つ。(5月、9月、3月) ④地域の保育所へ広報誌を配布し交流の機会を持つ。 ⑤防災訓練時には、地域の方に参加して頂けるように協力を依頼する。	12ヶ月
2	33 (16)	玄関等は施錠されておらず自由に敷地内は行き来できるようになっているので、自由な半面転倒等リスクが高い。	リスクの高い状況や利用者の状態を職員間で情報共有する。	①ミーティングや職員会議等で利用者の情報共有を行う。 ②家族との連絡を密にし、利用者の状況(日常の様子、受診時や状態に変化があった時等)について伝える。 ③転倒等があった時には、事故報告書によりすみやかに事故検証を行い再発防止に努める。 ④毎日の生活の中で、体操や散歩等行い筋力維持や向上を図る。(年2回は簡単な運動量について調査する) ⑤ホーム内に危険な箇所がないか月1回点検する。	12ヶ月
3	33 (16)	過去に1件ターミナルケアをおこなった経験があるが、今後またそのような機会が訪れた時に対応できるようにしておく必要がある。	ターミナルケアについて職員間で話しあい、情報共有するとともに、支援の向上を図る。	①看護師によるターミナルケアについての研修会を行う。 ②ひろいしの里としてのマニュアル作りを行う。 ③家族の希望等聞きながら情報交換し連携する。	8ヶ月～ 12ヶ月

4	11 (10)	開設3年目が経過し、職員はほぼ開設時からの職員であるが、さらに初心に戻り利用者に寄り添う支援をめざす必要がある。	利用者の方々にとって何が大切か、どのような個別の支援をしていくのか、利用者主体の支援について職員間で情報共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ①ひろいしの里の理念について話し合う。 ②地域の方にも参加を呼びかけ認知症について研修会を行う(老人会等)。 ③ひろいしの里の活動や取り組みについて地域に発信していく。(広報誌等) ④職員間で報告、連絡、相談が忘れず行えるようにする。 	12ヶ月
---	------------	--	---	--	------

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。